

関係するところざし読本の資料 「レンガづくりへの思い」



読み物資料等の内容

栄一翁は日本国内にレンガが必要になると感じます。そして、質の良い粘土がたくさんとれる深谷北部に目をつけます。採掘後の土地を水田として利用すれば、稲作ができて農家の安定した収入となることや、工場ができれば地元の人がそこで働くことができるとして、葦塚直次郎に地元を説得するように手紙を送ります。直次郎は、うまく説得することができたのでしょうか。

授業の様子



児童の感想



栄一は子供の頃に「自分だけがうれしいのではなく、みんながうれしくなくっちゃね。」と母親の急いから教えられたことをずっと守り通したことが素晴らしいと思いました。

葦塚直次郎は、瓦を造る技術を生かして日本のためにレンガをつくりました。地元の人達を説得するのがとても大変だったことがわかりました。



栄一翁は「世のため人のため」のことを考えていたことは素晴らしく、私もまねしたいと思いました。

論語の「子曰く それ恕か 己の欲せざる所は 人に施すことなかれ」が栄一翁の心に沁み込んでいることがわかりました。



授業を参観した教員の感想



ふるさと先生の授業を児童は楽しみにしていました。
レンガづくりに係わっての葦塚直次郎や栄一翁のことを事前に学び、ふるさと先生に質問を送り、ふるさと先生はこれらに触れる形で授業を進めてくださいました。
児童が真剣に聞き発表する姿が印象的でした。三偉人についての理解が深まるとともに、「みんなの幸せを考えていくことが大切だ」と、児童は改めて感じていました。
ふるさと先生の関口良子先生、大変ありがとうございました。